

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年4月9日(2009.4.9)

【公表番号】特表2007-516976(P2007-516976A)

【公表日】平成19年6月28日(2007.6.28)

【年通号数】公開・登録公報2007-024

【出願番号】特願2006-544436(P2006-544436)

【国際特許分類】

C 07 C	45/68	(2006.01)
C 07 C	47/19	(2006.01)
C 07 C	29/156	(2006.01)
C 07 C	31/20	(2006.01)
B 01 J	31/24	(2006.01)
C 07 B	61/00	(2006.01)

【F I】

C 07 C	45/68	
C 07 C	47/19	
C 07 C	29/156	
C 07 C	31/20	A
B 01 J	31/24	Z
C 07 B	61/00	3 0 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年2月17日(2009.2.17)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0054

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0054】

(非水溶液状態における“2-PA”-C<sub>8</sub>配位子)

パラホルムアルデヒドの形のホルムアルデヒド0.25mmol、N,N'-ジメチルプロピレン尿素35ml(0.26mmol)、Rh(acac)(CO)<sub>2</sub>0.10mmol、2-ホスファ-2-オクチル-1,3,5,7-テトラメチル-6,9,10-トリオキサ-トリシクロ[3.3.1.1{3,7}]-デカン0.20mmol、およびトリメチル安息香酸3.1mmolをオートクレーブに充填した。オートクレーブ中の内容物を90℃に加熱して、この温度で5時間保持した。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0058

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0058】

(水溶液状態における“2-PA”-CH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>C(O)NPh<sub>2</sub>配位子)

ホルマリン溶液(37%ホルムアルデヒド)の形のホルムアルデヒド0.15mmol、ジブチルアセドアミド37ml(0.22mmol)、脱塩水7.5ml、Rh(acac)(CO)<sub>2</sub>0.44mmol、2-ホスファ-2-(エチル-N,N-ジフェニルアミド)-1,3,5,7-テトラメチル-6,9,10-トリオキサ-トリシクロ[3.3.1.1{3,7}]-デカン0.89mmol、およびトリメチル安息香酸9.1mmol

1をオートクレーブに充填した。オートクレーブ中の内容物を110℃に加熱して、この温度で3時間保持した。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

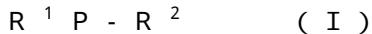
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

a) ロジウム源、および

b) 下記一般式の配位子



(式中、R<sup>1</sup>は二価の基であり、結合しているリン原子と一緒にになって、2-ホスファ-トリシクロ[3.3.1.1{3,7}]デシル基(この基中で、6,9及び10位の3個の炭素原子が酸素原子で置換されており、1、3、5及び7位の1以上が1~6個の炭素原子の一価の基で置換される)を表しており、R<sup>2</sup>は一価の基であり、場合によって置換された、1から40個の炭素原子を有するヒドロカルビル基である)

に基づく触媒組成物の存在下で、ホルムアルdehyドを水素および一酸化炭素と反応させることを含むグリコールアルdehyドの調製方法。

【請求項2】

触媒組成物が、c) アニオン源を更に含む請求項1に記載の方法。

【請求項3】

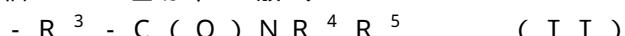
二価のR<sup>1</sup>基が、結合しているリン原子と一緒にになって、2-ホスファ-1,3,5,7-テトラアルキル-6,9,10-トリオキサ-トリシクロ[3.3.1.1{3,7}] - デシル基となっている請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

一価のR<sup>2</sup>基が、4から34個の炭素原子を有するアルキル基である請求項1から3のいずれか一項に記載の方法。

【請求項5】

一価のR<sup>2</sup>基が、一般式



(式中、R<sup>3</sup>はアルキレン基であり、R<sup>4</sup>およびR<sup>5</sup>は、それぞれ独立にアルキル、シクロアルキル、アリールまたはアルキルアリール基を表し、あるいはR<sup>4</sup>およびR<sup>5</sup>が一緒にになって二価の架橋基を表す)

である請求項1から3のいずれか一項に記載の方法。

【請求項6】

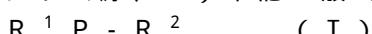
ホルムアルdehyド源が、ホルムアルdehyド水溶液であり、反応が水相および有機相を含む反応媒体で行われ、前記有機相と水相が22℃において混じり合わない請求項1から5のいずれか一項に記載の方法。

【請求項7】

有機相が水と混じり合わないアミド溶媒を含む請求項6に記載の方法。

【請求項8】

a) ロジウム源、b) 下記一般式の配位子



(式中、R<sup>1</sup>は二価の基であり、結合しているリン原子と一緒にになって、2-ホスファ-トリシクロ[3.3.1.1{3,7}]デシル基(この基中で、6,9及び10位の3個の炭素原子が酸素原子で置換されており、1、3、5及び7位の1以上が1~6個の炭素原子の一価の基で置換される)を表しており、R<sup>2</sup>は一価の基であり、これは場合によって置換された、10から40個の炭素原子を有するアルキル基であり、または一価のR<sup>2</sup>基が、一般式



で表され、式中、 $R^3$  はアルキレン基であり、 $R^4$  および  $R^5$  は、それぞれ独立にアルキル、シクロアルキル、アリールまたはアルキルアリール基を表し、あるいは  $R^4$  および  $R^5$  が一緒になって二価の橋かけ基を表す）、および場合によって c ) アニオン源を組合せることによって得られる触媒組成物。

【請求項 9】

配位子 b ) における  $R^2$  が一般式 II である、請求項 8 に記載の触媒組成物。

【請求項 10】

請求項 1 から 7 のいずれか一項に記載の方法によってグリコールアルデヒドを調製し、次いで前記グリコールアルデヒドを水素化することを含むエチレングリコールの調製方法。